

同窓生からの手紙

兵庫県出身。幼少期からバドミントン一筋で、秋田県の北都銀行チームで2年間プレー。平成27(2015)年、大学院専門職学位課程小学校教員養成特別コースを修了し、現任教に勤務。



う ち い ゆ か
内井佑花さん
加西市立泉中学校教諭

指導案を書き 自分を磨く毎日です

「指導案を書く」と一番割いた時間です。何度も書き直し、仲間と試行錯誤した日々を鮮明に覚えています。教員になって4年目。指導案を書くことの本当の意味が分かってきました。行き当たりばったりの指導では必ず行き詰まることを身をもって経験し、頭の中で指導案を描きながら日々過ごしています。学生の皆さん、時間のある今だからこそ指導案をたくさん書き、教材に関する知識や考えを深めてください。また、趣味や特技を持ち自分の武器を作ること。積極的に人と関わりコミュニケーション能力を身に付けること。こういった人としての幅を広げることが何より大切であることを今、実感しています。私自身、実業団まで現役を続けたバドミントンを通して学んだ人との付き合い方や物事の考え方が教員になって生きています。情熱あふれる先輩方に囲まれ、自分を磨く毎日がとても楽しいです。一緒に働ける日を楽しみにしています。



←道徳の授業の様子

LETTERS FROM OB & OG

岡山県出身。平成22(2010)年学校教育学部芸術系コース卒業、24年大学院修士課程芸術系コース修了後、筑波大学大学院に進学。同大学非常勤研究員等を経て、現職。日展をはじめ全国展での受賞多数。



や ま も と ま さ ゆ き
山本将之さん
大阪大谷大学専任講師

培ってきた造形観・素材観を 幼児造形の世界に生かします

→大学と幼稚園の交流フェスティバルで発表した山本ゼミの造形遊び



←改組新第5回日展入選作品「例え土が無くても」

美術とは無縁の高校時代を経て、学部2年生の時に彫刻と出会いました。以降、大学院まで一貫して人体を対象とする彫刻制作にまい進。大学時代は制作を通して、普遍や本質という言葉の意味を探求できる貴重な時間を過ごすことができました。昨年度からは保育者養成に携わり、幼児の造形表現に触れる機会が増えました。幼児の造形とは描画のみを指す言葉ではなく、例えば砂遊びの際に山を作り、トンネルを掘り、水を流すといった活動も含まれます。そのため、体全体で素材と触れ合う行為の集積が、結果として子どもの表現として現れます。大学時代とは別種の新鮮な表現に出会っています。現在は制作研究を通して培った造形観や素材観を幼児造形の世界に踏襲すべく、日々悪戦苦闘しています。これまでの素材研究を生かした新しい児童文化財の開発や、子どもの興味を促す造形遊びの提案など、大学時代から意識している本質の所在を常に考え、研究を進めていきたいです。

同窓会・都道府県連携推進本部からのお知らせ

教育研究活動に係る表彰について

8月4日、5日に鳥取県米子市で開催した第38回大学院同窓会鳥取大会で、平成30(2018)年度「教育実践研究活動等に係る表彰」を行いました。この表彰は、教育実践研究活動等に顕著な成果を挙げ、大学や大学院同窓会の名誉を著しく高めた修了生が対象。今年は8人を表彰しました。詳しくはHyokyo-netをご覧ください。

◎表彰者(敬称略)

嬉野賞 / 伊井直明(4期・教育基礎・兵庫県)

奨励賞 / 小川雄太(36期・授業実践開発・兵庫県)、河合信之(34期・認識形成系教育・兵庫県)、津田直子(17期・生徒指導・大阪府)、松田雅代(35期・授業実践開発・大阪府)、三谷祐児(15期・言語系・鳥取県)、中佳久(19期・障害児教育・和歌山県)、小川圭子(18期・幼児教育・大阪府)